

平成22年度 成増小学校の学校評価

【教育目標】 ○深く考える子ども ○心の豊かな子ども ○ねばり強くやり抜く子ども ○健康な子ども

【めざす子ども像】 ①よく学ぶ子 ②思いやりや感謝の気持ちをもつ子 ③心身ともにたくましい子

【めざす教職員像】 ①子どものために全力で取り組む教職員 ②自己成長への意欲のある教職員

【めざす学校像】 ①活力のある学校 ②安心安全な学校 ③信頼される学校

領域	目標 ○中期 I II短期	具体的方策	学校の自己評価（中間評価10月、年度評価2月頃）								学校関係者評価意見 (学校運営連絡協議会)	評定	
			取組(努力)指標		中間	年度	基準	成果指標		中間			年度
学力の向上	○基礎・基本を大切に、わかる授業の創造に努める。	I 調べたことや学習したことをまとめ、発表する場をつくる。	4	全学級が計画を実施	4	4	4	全員が発表する場を4回持てた	3	3.8	・コミュニケーション力の育成を継続して校内研究で取り組んだ成果。H22 都学力調査でも平均を大きく上回る。	・適正な自己評価である。全体発表を基準にすると物理的限界もあり評価が下がる。形にこだわらず目標達成を評価すれば自己評価も上がる。実際の発表を是非みたい。	A
			3	90%の学級が計画を実施			3	3回持てた					
			2	80%の学級が計画を実施			2	2回持てた					
			1	計画の実施学級は80%未満			1	1回持てた					
	I 自ら学ぶ力の育成	II 学年で設定した冊数の本を読ませる。	4	全学級で目標冊数を設定	3	3	4	90%の児童が目標冊数をこえた	2	2.5	・児童アンケート 読書がとても好き 53% 好き 36% 好きではない11%・意識付けする取り組みの弱さが結果に。全学級の共通理解を図り、23年度区立小全校に図書館司書週1日配置を生かす	・成果指標がかなり難しい。 ・冊数も種類も評価指標としたい ・読書の目標は生活習慣とも関わりがありかなり難しいと思われるが努力してほしい。	B
			3	90%の学級で目標冊数を設定			3	80% "					
			2	80%の学級で目標冊数を設定			2	70% "					
			1	目標冊数設定学級は80%未満			1	目標冊数をこえた児童は70%未満					
	II 読む、書く、伝える、計算する力の定着	III 漢字を読み、書くことができるようにドリル等を活用して習熟を図る。	4	全学級が計画を実施	4	4	4	90%の児童が8割以上できた	3	3.3	・漢字は高い習熟率（都・区学力調査）授業での学習の他学校支援地域本部の取組（漢字検定等）も成果を上げている	・達成率は立派である。だが未達成の児童がいることをむしろ励みに 100%をめざしてほしい。 ・客観的資料で評価の適切さがよくわかった（都学力調査・区振り返り調査の結果分析）。	A
			3	90%の学級が計画を実施			3	80% "					
			2	80%の学級が計画を実施			2	70% "					
			1	計画の実施学級は80%未満			1	8割以上できた児童は70%未満					
	IV 計算を正確に行うことができるようにドリル等を活用して習熟を図る。	4	全学級が計画を実施	4	4	4	90%の児童が8割以上できた	3	3.6	・計算能力は高い習熟率である。（都区学力テスト）フィードバック学習により遅れが取り戻せた児童もいる（検証調査結果）	・同上	A	
		3	90%の学級が計画を実施			3	80% "						
		2	80%の学級が計画を実施			2	70% "						
		1	計画の実施学級は80%未満			1	8割以上できた児童は70%未満						
豊かな人間性の育成	○ルールを守って互いを尊重し合える豊かな心を育てる。 I 道徳教育の充実	I 全学級で公開授業に、道徳授業あるいは学級指導等を取り入れる。	4	全学級が計画を実施	4	4	4	保護者・地域アンケートでよい・だいたいよいの評価を80%以上得た	4	4	・道徳授業は年間35時間以上実施。「いじめやからかい」を許さない持続。自尊感情規範意識を育てる指導を充実させていく。 ・保護者アンケート A30%B60%・児童アンケート A44%B47%	・成果指標に合わせるとそうなるが取り組み目標と成果指標が対応していない。 ・成果指標が昨年より下がっている。分析と対策を考えてほしい	B C
			3	90%の学級が計画を実施			3	70%以上					
			2	80%の学級が計画を実施			2	60%以上					
			1	計画の実施学級は80%未満			1	肯定評価60%未満					
	II 基本的な生活習慣の定着	II 校帽・名札の着用、時間を守ること、ルールを守ることの指導を行う。	4	全学級が計画を実施	4	4	4	児童アンケート80%以上児童意識向上	4	4	・児童アンケートA60%B34% 保護者アンケートA26%B57%・保護者・児童とも高い評価だった。学校組織として、ばらつきがない指導を心がけてきた。決まりの意味の周知等、取組を継続。	・立派な成果である。 ・体がきちんとしているのは普段の登下校の様子からもわかる。 ・道徳心とアンケート対象者が違うので結果を比べることができない	A
			3	90%の学級が計画を実施			3	70% "					
			2	80%の学級が計画を実施			2	60% "					
			1	計画の実施学級は80%未満			1	60%未満					

領	目 標	○中期 I・II短期	学校の自己評価 (中間評価10月、年度評価2月頃)						自己評価について	学校関係者評価 (学校運営連絡協議会)	評	
			基準	取組(努力)指標	中間	年度	基準	成果指標				年度
健康・体力の向上	○体力、運動能力の向上と食育の推進に努める	I 食育に関する資料や保健だより等を活用し、実践に結びついた食育指導をする。	4	全学級が実施	4	4	4	児童アンケート80%以上の児童に意識の高まり	4	・栄養士のとれたて村の授業は3年5・6年は家庭科授業。124年は、学級指導で重点的に実施。児童アンケート好き嫌い無しで食べる A64% B23%	・よく達成している。 ・評価は適正である。	A
			3	90%の学級が実施			3	70% 〃				
			2	80%の学級が実施			2	60% 〃				
			1	実施学級は80%未満			1	意識の高まりを得たのは60%未満				
	I 家庭と連携した食育の推進	II 年間2回、体力調査を実施し、「投げる・跳・走る」の指導の充実を図る。 (中高学年対象)	4	中高学年の全学級が実施	2	1	4	児童アンケートで80%以上児童に意識の高まり	4	・体力テスト1回の学年が2学年あった来年からは必実施に。・児童アンケート 運動能力の伸びを感じている92% そうでない児童8%上手にできますかという聞き方が成果指標として不適切だったかもしれない	・取り組みが悪いのに結果がいいのはなぜか不明 ・体力テスト2回実施すれば比較すると体力向上がわかる。	BC
			3	〃 90%の学級が実施			3	70% 〃				
			2	〃 80%の学級が実施			2	60% 〃				
			1	中高学年実施学級は80%未満			1	意識の高まりを得たのは60%未満				
	II 基礎体力の向上を図る	III 年間20回の体育朝会で「体づくり運動等」を実施し、運動への関心を高める。	4	計画通り実施	3	3	4	児童アンケート80%以上の児童に意識の高まり	4	・インフルエンザ対策等で20回には届かなか児童アンケート運動がすき A75% B19% C6% 好きでない6%をどうするかが課題	・成果を上げている。 ・評価は適切である。	B
			3	計画の90%を実施			3	70% 〃				
			2	計画の80%を実施			2	60% 〃				
			1	計画実施は80%未満			1	意識の高まりを得たのは60%未満				
地域の連携	○地域に開かれた学校づくりに努める。	I 寺子屋事業への児童参加の働きかけをする。	4	全学級で参加の働きかけ	4	4	4	参加児童の80%以上の児童が意欲的に参加	4	・昨年度と評価指標が違い、それにより評価数値が違う・参加児童271人/全校児童587名アンケート 意欲的217名/回答者255名	・アンケートが参加児童だけなのは指標として問題である。・参加5割はすごい。多くの関係者の努力のたまものである。	A
			3	90%の学級児童参加働きかけ			3	70%以上 〃				
			2	80%の学級児童参加働きかけ			2	60%以上 〃				
			1	参加働きかけ全学級80%未満			1	意欲的に参加が児童の40%未満				
	I 寺子屋事業をはじめとする地域行事への積極的な児童の参加	II 「PTA行事、童謡まつり、農業まつり等」の地域行事における児童参加の支援をする。	4	全学級で児童参加への支援	4	4	4	保護者アンケートで80%のよい評価を得る	3	・児童アンケート行事への参加 A52%B38%保護者アンケート A28% B44% C23% 大人の評価の方が厳しいが、児童は90%参加している意識である。	・この評価文言で保護者アンケート80%高評価は難しい・地域行事はたくさんある。教員の参加が多く地域も児童も喜んでいる。	A
			3	90%の学級で児童参加の支援			3	〃 70%				
			2	80%の学級で児童参加の支援			2	〃 60%				
			1	参加の支援は全学級80%未満			1	〃 よい評価が60%未満だった				
	II 学校からの情報発信	III ホームページで「公開の必要な学校情報」を発信する。	4	年4回以上の発信を行う	3	4	4	保護者アンケートで80%のよい評価を得る	4	・運動会メール等を入れると、HPの更新回数4回以上 ・学級閉鎖、地震には支援地域本部のメールを活用させていただいた。	・評価結果項目が適切である。 ・保護者アンケート情報公開達成 AB あわせて80%は適切であろう。	A
			3	年3回程度 〃			3	〃 70%				
			2	年2回程度 〃			2	〃 60%				
			1	発信を行わない			1	〃 よい評価が60%未満だった				
		IV 特別支援教育研修会、外国語活動研究授業、異校種間交流会等を企画し、職員などが積極的交流することで相互に学び合う	4	3回以上の実施	4	4	4	実施後の職員アンケートで80%のよい評価を得る	4	・アンケートの取り方の検討が必要である。 ・取組指標の具体化が必要。 ・研究の実績もあり、意欲的に研究授業や授業公開はできている。	・成増の英語算数はよいという評判を聞く。先生方の努力の成果だと思う。継続してほしい。中学がよくなったという話も聞く。地域にとってもうれしいことだ。	A
			3	2回実施			3	〃 70%				
			2	1回実施 〃			2	〃 60%				
			1	実施せず			1	〃 よい評価が60%未満だった				

<学校の自己評価>

学校が行う自己評価は、学校の最も基本となるもので、年度の初めに設定した目標や具体的な計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について学校自らが評価を行うものです。なお、保護者の皆様からいただいた「アンケート」等の結果は自己評価を行う上で目標設定・達成状況や取組の適切さ等について評価するためのものと捉えました。

<学校関係者評価>

学校関係者評価とは、成増小学校の学校運営連絡協議会（保護者代表・地域住民・幼稚園長・大学教授等で構成）が、学校の教育活動の観察や意見交換を通じて、自己評価結果について評価することを基本として行うものです。

<学校関係者評価の評定の意味>

- A 自己評価は適切
- B 自己評価はおおむね適切である
- C 評価のための資料が不足
- D 自己評価は不適切である